

半導体漫遊記

湯之上隆

177

2016年以降、メモリ市場が大爆発している。月額売上高のグラフを見ると、メモリ市場は、ほぼ垂直に立ち上がっている。この原因は二つある。

一つは、人類が生み出すデジタルデータが指数関数的に増大し、これをストレージするためのサーバー市場が急拡大しているため、その記憶装置であるNANDがつくってもつくっても足りない状態になったことである。

もう一つは、サムスン電子、SK Hynix、マイクロンの3社に集約されてしまったDRAMメーカーが「緩やかな談合」をし

ており、需要に対して供給がちよっと足りない状態をつくり出した結果、DRAM価格が勝手に高騰していることによる。

ところが、日経新聞の『迫真 半導体 異次元の攻防 1』(1月8日)によれば、DRAMは「ちよっと足りない」どころか、NAND同様、全然足りない状態であるらしい。

上記の記事によれば、何としても最先端は、何としても最先端

ば、グーグル、フェイクブック、アマゾン・ドット・コムを担当者が連日のように、サムスンを訪れて、「最先端DRAMを当社に供給し欲しい」と頭を下げているという。これらIT企業では、クラウド

DRAMを手に入れるべく、サムスン電子詣でをせざるを得ない状況となった。そして、グーグルは昨年秋のサムスン電子との交渉により、「12インチウエハで毎月2万枚のDRAM」を求めたという。本来なら、個数で

「緩やかな談合」を行い、ちよっと足りない状態を維持し、価格高騰を続けてきたDRAM市場において、サムスン電子が、急激な生産能力増大を決断した模様である。

その上、微細化投資も、1x↓1y↓1z↓1A↓1bと加速していく気配である。サムスン電子が「緩やかな談合」を破棄して、増産や微細化に動き出したとなると、SK Hynixやマイクロンも黙ってはいないだろう。恐らく、SK Hynixもマイクロンもキャパアップする可能性が高い。

今年、DRAM価格暴落か

巨額投資でチキンレース

とによる。

ドビシオスのために、

発注するものを、ウエハ枚数でオーダーする

社によれば、2017年に月産40万枚だったサムスン電子のDRAMのキャパシティは、2018年中に月産50

に価格が高騰していく快適で幸せなDRAMビジネス環境は「はぶち壊され、チキンレースが始まることになる。」

今年、DRAM価格が暴落するかもしれない。

(微細加工研究所・所長)

その記憶装置であるNANDがつくってもつくっても足りない状態になったことである。

DRAMは「ちよっと足りない」どころか、NAND同様、全然足りない状態であるらしい。

その結果、NAND同様に、DRAMもまったく足りない状態となっているらしい。

その結果、今までは、何としても最先端

その結果、今までは、何としても最先端

その結果、今までは、何としても最先端

その結果、今までは、何としても最先端

その結果、今までは、何としても最先端

その結果、今までは、何としても最先端



図1 半導体の種類別の月額売上高

出所: 日経テクノロジーオンラインのデータ基に筆者作成